九州ブロック主婦の会が交流会

十月下旬、「九州ブロック主婦の会・八〇秋季交流会」が武雄市（佐賀県下）で開かれ、きびしい情勢のなか、「いのちと健康、平和を守る」ことなど十三項目にわたる活動目標をきめ、婦人運動を強めることを固く申し合わせた。

憲法改悪反対など決議

子どもと平和を守らねば

九州ブロック主婦の会八〇秋季交流会が十月二十五日から二十六日にかけ、佐賀県下の武雄市で開催された。

九州各県から百五十人（三池主婦会から六人）参加、第一日目、まず田中＝総評主婦の会事務局長の問題提起のあと、「暮らしと平和を守るために」「働く主婦の問題」「子どもの問題」「組織を強めるために」――の四分科会に分かれて討議、活発な交流を行なった。

二日目は各分科会の報告と総括のあと、中野一氏が「主婦と平和」と題して記念講演。要約、次のような話があった。

記念講演の内容

さきの選挙で安定多数を占めた政府・自民党は、タテ社会――公民館などの行政組織を利用し、婦人会や青年団などを枠内におさめ公労協・教育労働者の選挙活動を選挙法違反としてきめつけながらいやがらせのため「一一〇番」させるなど、反動性をむき出しにしてきている。

戦後の私たちの闘いは、占領時代、反共政策のとき、それから今日の平和運動の高まりというのに、そって、形を変えてきたが、社会党や労働者階級の運動こそが、かろうじて今日の平和を維持してきた。

日本帝国主義は過去百年もの間侵略戦争を続け、財閥が利をほしいままにむさぼってきた。

なるほど占領軍が、独占体制を解体することによって平和を考えて、戦争放棄と主権在民の憲法を提起したことには相違ないが、それを受け取り、四カ月にわたって国会で審議され、その結果誕生した憲法だった。その制定に対する全国民のよろこびは大きかった。

今日自民党は、現憲法は占領軍からおしつけられたものなので、自主憲法の制定をいい出し、反動ぶりをむき出しにしているが、闘ってきた護憲運動は正しかった。

女性は本来本能的に平和を求めるのだから、新憲法の意味を再確認し、学習し、戦争体験を語り合うなど、平和運動を強めていくように願いたい。

×

そして最後に、十三項の申し合わせを取りきめると同時に、平和運動をすすめていくなかで、①憲法改悪に反対する決議。②きれいな水と命を守るため、すべての合成洗剤を追放する決議。③核燃料再処理工場設置に反対する決議――を採択。今後の一年間、ともにがんばることを意志統一して散会した。

×

右は主婦会事務局よりの提供。

むくいる道はどこ？

山川菊江さんの訃報に接して

主婦会・桂　斉藤清子

手記

十一月二日、婦人解放に一生をささげられた山川菊栄さんが死去されました。心からご冥福を祈ります。

今でこそ国際婦人年がもうけられ、世界のあらゆる場所で婦人運動を進めていますが、私達日本の婦人が政治に参加できるようになったのは、本質的には第二次世界大戦後のことです。

それまでは、婦人が集まって話し合ったりすることはできず、また結婚するにしても、親が決めた人であれば顔を見たことさえない人と添わねばできず、それに、たとえどんなにひどい夫でも、女の方から別かれることなど言い出すこともできなかったのです。

「女、三界に家なし」と言われたように、嫁しては夫・姑に従い、老いては子に従うだけ、一生家のために働いてこそ良い嫁だったのです。墓穴にはいってから初めて、ゆっくり休むというようなあわれな女性が多かったものです。

私の母も、私がとしごろに成長すると、縁談を持ってきてくれる人にすぐ、長男かどうか、子姑は多くないかなど、すぐ尋ねていたものです。自分が泣いて生きてきた道を、娘の私にだけは歩かせたくないというのだったでしょう。

山川さんが運動なさるころは、すぐ「アカ」だとか、「危険分子」だとかのレッテルをはられ、厳しい弾圧により投獄されてきたものです。山川さんは本当に大変なご苦労と強い意志で、あくまで婦人の政治的・社会的地位の向上のために闘い続けられたのです。そのことを忘れてはならないと思っております。

考えますと、現在では婦人も成人しさえすれば自動的に参政権が手にはいるようになっておりますが、この権利こそ、山川さん方の大先輩達の血みどろな婦人解放の闘いの、一つの大きな成果なのです。

でもまだ職場においても、家庭においても、女性に対する差別が全部なくなったとはいえません。

本来、女は男に真似のできない大事な役目をもっています。ほかでもなくそれは、生命を生み出す力です。とかく「女は弱いが母は強し」と、昔からいわれてきたのもそこからです。

今、私達母親は婦人の権利に目覚めたのです。その責任からも、自分達の力が生み出した生命――子供達を、二度と戦争などの犠牲にさせないために闘うこと、何よりもこの運動こそ第一と考えます。そして、そんな戦争などのない、婦人が男性とともにしあわせになる明るい社会と生活を築くことと、その目標を半歩でも一歩でも実現していくために闘うことこそ、山川さんにむくいる道ではないでしょうか。お互いにがんばっていきましょう。

燃えていた三池の火

退職者東京旅行に同伴して

手記――　大砂　岡本タツエ

主人の定年退職に伴ない、六泊七日の関東・関西旅行に参加させてもらい、命の洗濯を致してきました。

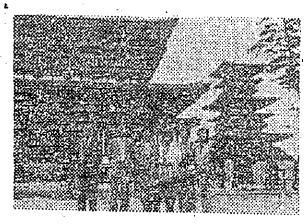
今回のように心あたたまる旅行は本当に初めてでした。奈良、大阪、日光、東京などの名所や古蹟はもとより、国会の中まで案内付で見学させていただき、主人とども心より有意義に感じています。

名所めぐりも有難かったけど、何といっても心動かされたのは関東・関西の両不知火会の方々の心よりの歓迎でした。皆さんは三池を遠くはなれていられても、やはり私達の三池労組、三池主婦会の仲間でした。

交流会場に着いて懐しい方達と顔を合わせた瞬間、なぜか涙がこぼれて仕方がありませんでした。やはり一緒に三池闘争を闘い、資本、国家権力の支配をはねのけ、階級闘争を共に闘った人達に逢えた嬉し涙だったのでしょう。毎年こうして、三池の定年退職者を迎えて交流会を開催してくださる諸先輩のご苦労も大変でしょう。忙しい中を、私達のために集ってきてくださった方々のやさしいねぎらいの言葉。

「長い間ご苦労さまでした。最後まで差別に負けず、よくがんばったですね。つらかったでしょう」

この言葉でもう胸がいっぱいになり、感無量でした。今まで、主人は組合運動を、私は主婦会活動を、とともにはげましあって闘い抜いた三十年間の苦労がいっぺんにむくいられた思いでした。



写真は奈良の薬師寺で

関東不知火会では三池闘争二十年記念集会が行なわれ、展示されていた懐しい写真や日刊紙を見、三池の火はいつまでも燃え続けていることを確認しました。

主人も会社こそ定年になりましたが、人生には定年はありません。今後とも諸先輩のご指導を受けながら、第二の人生をたのしく暮らしていきます。特に家庭を守る主婦として、私も今後は消費者運動に力を入れ、三池主婦会で学んだことを役立てていきたいと思っています。

とにかく今回のようにたのしく有意義な旅ができたのも組合あってのことで、またお世話をしてくださった松岡さん、前川さんのなみなみならぬご苦労のたまものです。心より厚くお礼申し上げます。

×　×

古賀さんからお便り

織田さん宛てカンパまで

主婦会員といってもすでに先輩格の一人――織田文江さん（大牟田市臼井社宅二丁目一二六）に、よろこびの便りがとどいた。しかも、主婦会への多額のカンパまで添えられて……。

便りをくださった人は、今「横浜市保土ケ谷区上菅田町、笹山団地一〇六―四〇四」にお住まいの古賀久恵さん（ご主人は大吉さんといい、三池労組の元書記だった人で、かって長く同じ臼井社宅にお住みだった）。

とりあえず、次のお便りをご紹介しよう。

「先日は〝三池主婦会二十五周年記念文集〟をお送り下さいまして誠にありがとうございました。皆さん一人ひとりの文章から初めて知ったこともあり、なつかしく読ませていただきました。

二十五周年は去年だったのですね。遠く離れてしまうと、身のまわりだけに追われ、すっかり忘れてしまって、申し訳ない気持です。読めば読むほど、皆んなでたたかった日がまざまざと想い出されて涙が出ました。

松田さんはとうとう亡くなられてしまって、〝イッペコッペ〟のうたをよく歌われたことを、主人となつかしく想い出しています。

二十五周年お祝いのカンパを少しお送りしますので、主婦会へおとどけ下さい。そして皆様によろしくお伝え下さいませ、まずはお祝いかたがた御礼まで」

織田さんならずともうれしく、感謝の言葉もない。

×

主婦会会員の皆さん、寄せられたお便りをこのページを通じて紹介しましょう。

婦人会見

三池主婦会の組織機構の編成替えにともない、地域組織が大きくブロック制になりました。

それで、今までの支部の主婦会員皆さんと顔を合わせることが少くなるのではないか、と思われて、淋しくさえ感じられていました。

しかしブロックを結成してみると、今までは、顔だけは知っていて、ただ言葉や挨拶を交わすだけだった人も、今は話をかわすようになり、少しずつ新しい仲間意識もできていき、心強く思っています。

各ブロック代表の方ともしたしくなり、会員の方々とも話合いができて、ブロック制のむずかしさを思う心も少しずつほぐれ、ブロックの皆さんに協力をお願いしています。主婦会活動などについても、まず自分が進んで行動し、そして会員の皆さんにお願いするならば、きっと聞きいれてくださることと思っています。

ブロック制に思う

荒尾・四山ブロック　山本ツヤ子

これからも主婦会の皆さんと交流を深め、地域の三池労組員の方々とも今まで以上に連絡をとり合って協力を願い、お互いに助け合い、前進して行きたいと思います。

胸はって、ともに頑張りましょう。

×

三池主婦会員の皆さん、それから各地のCO患者守る会々員のご家族の皆さん、本紙はただ今新年文芸を募集しています。ぜひこの欄（姿見）のために、ご寄稿をお願いします。

もちろん字数も問いません し、また原稿用紙でなく用紙や便箋をお使いいただいて結構です。十二月十五日締切りです。くれぐれもお願いします。

三池ばかりでなく全国の主婦の手で、ますます充実した、豊かな〝姿見〟にしていきたいものです。よろしくご寄稿をお待ちいたします。

――編集部